

平成28年度「学力・学習状況」検証事業研究状況報告書(概要)

1 市川市立稲荷木小学校について

児童数は、403名（男子児童211名、女子児童192名）で、学級数は、各学年2学級の12学級に特別支援学級（難聴）の2学級を加えた14学級で構成されている。職員数は、31名である。

学校教育目標は、「やさしく かしこく たくましく～自立できる子の育成」で、児童の道徳的な感性を育てることを第一意義にあげている。また、総合的な学習の時間では、キャリア教育を柱に、各学年で人と関わる力を育てるための学習に取り組んでいる。

2 研究主題

基礎的・基本的な学習の確実な定着とわかる授業の実践をめざして

3 研究の概要

(1) 児童の実態と課題(「全国学力・学習状況調査」の結果から)

国語科では、平成27年度は「話す・聞く能力」、平成28年度は「読む能力」において全国平均より大きく下回っていた。このことから、話の内容を整理して聞いたり話したりすることが苦手であることや、筆者の意図や話の要点を読み取ることが苦手であることがわかる。

算数科においては「図形」において全国平均を下回っている。見取り図と展開図を関連付けて立体図形の辺や面の位置関係を理解することができていない。

以上のことから、複数の情報を処理する力や関連付けて考え活用していく力の育成が本校の課題であると考えます。

(2) 学力向上のための取組とその成果

- 朝学習の時間を確保したり、宿題等、家庭学習の推進を行ったりするなど児童の学習環境を整えることができた。
- 一人一授業の積極的な校内授業研究会や、フレッシュマン研修の実施等、わかる授業の追究に取り組んでいる。
- 中学校ブロックで協力して「授業の約束」を作成し、教室に掲示して児童に声かけをするなど学習規律を確立している。
- 「家庭学習のすすめ」を作成し、家庭学習の習慣化を図っている。
- 放課後に市川市の取組である「校内塾・まなびくらぶ」を中学年において実施し、算数科の基礎的な学力の定着や家庭学習の支援を行っている。

(3) 加配教員の活用とその成果

全ての学級の算数科の学習において、複数で指導にあたるため、きめ細かな指導を行うことができています。全校学力・学習状況調査においても、算数科では安定した成果を残すことができてきています。

4 今後の課題

学習中の発表や宿題以外の家庭学習の取組について、児童から回答を得た「学習アンケート」の結果を見ると、肯定的な意見が少ない。今後は、児童が意欲的に学習に取り組める授業環境づくりを進めたり、「家庭学習の手引き」のさらなる工夫改善を行ったりしていかなければならないと考えています。